

バス関東本部申16号

## 2018年度 夏季手当に関する申し入れ 6月7日、主旨説明を行う!

### 組合の主張

- 2017年度決算は過去最高の営業利益であった2015年度のレベルであり、3年連続安定的に推移している。高速線(対前年101%)・一般線(105.8%)と好調であり、バス事業の柱が更にしっかりしている証だ。原油高騰等の営業費用増の懸念をクリアした上での9億9900万円の営業利益確保、その原動力はまさしくJR東労組組合員であり満額回答を求めていく。
- 不調と言われた1~2月期以降、組合員の踏ん張りで収入が回復した。更にGW輸送では高速線が対前年107%。好調であることは組合員が最も実感している。昨年度訪日外国人は2869万人と過去最高を記録、政府は2020年には4000万人を目指す中、施策を担うのは組合員であり、安全を最重視した体制の強化が求められる。
- 未だに「一年中繁忙期」という声が多く職場から出されている。休日出勤や圧縮行路で負担増の現実、生活設計を調整し奮闘する組合員の努力は計り知れない。
- 若い世代からは、長時間拘束・泊まり勤務・不規則勤務が好まれない時代。魅力あるJRバス関東を発信することを通じた人材確保のためにも満額要求を要求していく。
- 職場では株主第一主義になっているという声を聞く。当然で重要なことではあるが、社員・組合員が納得できる成果配分がモチベーションに反映する。2018年度目標を一丸となって達成するためにも、実績に応える回答を求める。
- 生活に直結している55歳以降の減額・60歳以降契約B社員雇用について、改善はまだかまだかと全職場から悲痛な叫びと上がっている。まずは夏季手当での交渉でも60歳以上の加算継続を強く求めると共に、減額制改善議論のスピード感を上げていかなければならない。

### 会社の主張

- 組合員の努力のもとでの利益確保であり、申し入れ主旨は十分理解している。不調であった年初から、3月期は驚異的な回復に至った。前々年度よりは営業利益は低い、安定経営を維持出来ている。組合員の日々の努力に感謝申し上げる。
- 株主が一番ということは企業としては当たり前である。社員にも対応し、株主や関係する業者に対しても神聖な気持ちで対応しなくてはならない。
- 事業計画の目標であるバス事業での黒字には及ばない現状である。良いところまで来ているが、株主からの経営支援物資のため利益が出ている状況は変わっていない。今年度はバス事業で黒字の出せるように、自主自立の経営を目指す。
- 期末手当は業績連動であり、これまでと変わりはない。どの程度応えられるかを鋭意協議し、回答期間に回答をしていく。

**休日出勤や圧縮行路の中、安全な運行をしている  
組合員の努力に報いるために、会社は満額回答をするしかない!**